地域の将来像を描く／景観の新たな価値を創造する

環境科学部　環境建築デザイン学科　教授　村上　修一
研究分野　：景観建築（Landscape Architecture）
http://www.form.e-arc.jp/

諸事象の相互作用の結果として立ち現れる様相をランドスケープ（Landscape）と言います。諸事象の解読から地域の将来像を描くことに取り組んでいます。また、諸事象に対する新しい見方を発見し、新たな景観価値を創造することにも取り組んでいます。

■地域の将来像を描く

社会の縮退や、自然災害の危険性など、地域の将来像が見えにくい状況にあります。土地特性の解析や、地域資源の発掘をとおして、地域の将来像を描くことに取り組んでいます。これまでの成果の一部を以下に挙げます。

2019年：愛荘町まちのグランドデザイン構築（継続中）
2017年：彦根市京町公園基本構想の策定
2014年：近江八幡市官庁街ランドスケープデザイン
2012年：長浜市小谷城スマートIC利活用計画
2012年：長浜市田村山の保全とカスミサンショウウオ生息池の計画
2011年：東近江市奥永源寺振興計画
2011年：東近江市景観重要建造物指定に関する調査
2011年：愛荘町湖東三山スマートIC周辺地域活性化計画
2011年：長浜市公園リニューアルワークショップ
2010年：長浜市四居家ポケットパーク計画
2009年：東近江市永源寺東部の地域資源に関する調査
2006年：長浜米原まんなかまちづくり構想
2005-2009年：草津市におけるヨシを用いて湖岸との関わりを再生する取り組みの支援
2005-2008年：大津市における都市水路をいかす商店街活性化プロセスの提案

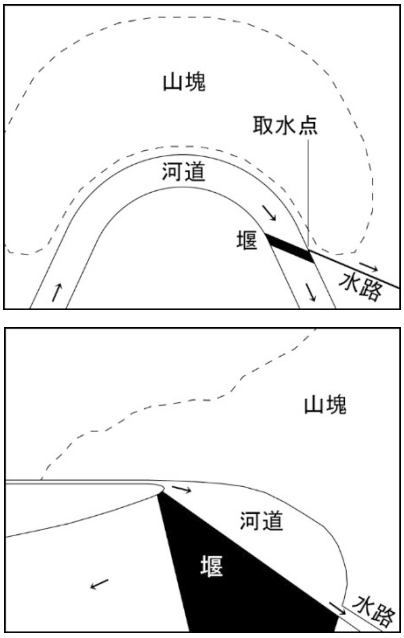
東近江市奥永源寺振興計画（2011年）における
元中学校を活用した道の駅の計画案（作図：木村真也）

■景観の新たな価値を創造する

審美性という従来の景観価値とは異なり、空間の豊かさにつながる解釈の多様性や、人と自然の関わりの有様があらわれる親水性・文化性といった、景観の新たな価値の創造に取り組んでいます。これまでの成果の一部を以下に挙げます。

2002-2017年：歴史的な堰の親水性および地形との関係性が織り成す景観の研究（日本造園学会賞（研究論文部門）受賞）

1998-2004年：米国近代ランドスケープデザインにおける形態の曖昧性に関する研究（日本造園学会研究奨励賞受賞）



歴史的な堰と地形の関係性が織り成す景観（2016年）
国内51水系90堰の取水点において、洪水をいなす堰の配置、澪筋が安定しやすい河道や山塊との関係が眺望可能なことを明らかにしました。